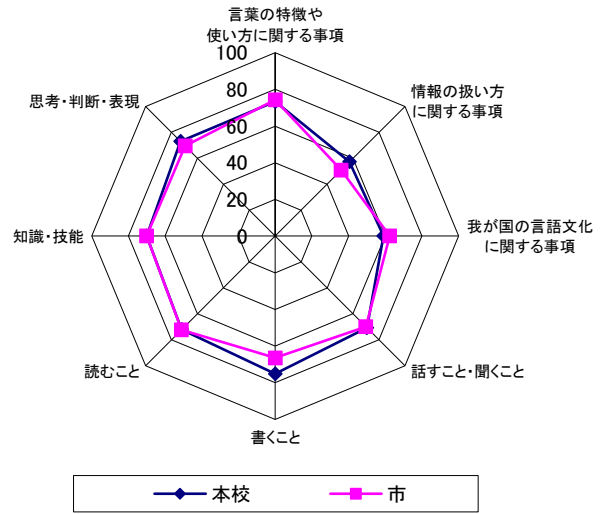


宇都宮市立築瀬小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	73.4	74.3	74.8
	情報の扱い方に関する事項	57.2	50.9	48.4
	我が国の言語文化に関する事項	59.0	62.4	60.8
	話すこと・聞くこと	70.7	69.9	69.7
	書くこと	75.1	66.4	64.6
	読むこと	72.1	72.3	71.0
観点別	知識・技能	70.1	70.1	70.0
	思考・判断・表現	73.0	69.5	68.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

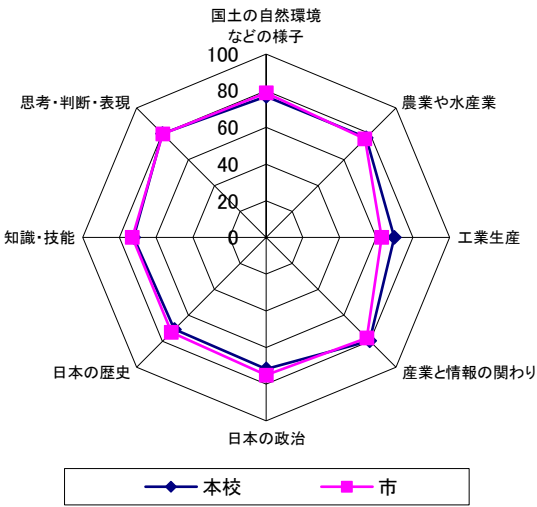
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方に関する事項	平均正答率は、市と比べて0.9ポイント低い。 ○漢字の読み書きについては、市の平均より低いものもあるが、校内の平均正答率は、ほぼ85%を超えている。 ●同音異義語の選択では、正答率が30%台であり、文章の中で文脈に沿った漢字を適切に使えていないことが分かる。 ●敬語の使い方については、尊敬語の正答率は、市と比べて0.9ポイント低い課題が残る。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読み書きの定着に向けて、朝の学習や漢字オリンピックに引き続き取り組む。その際には、文章の中で、文脈に沿った漢字を適切に使えるようにするための問題も取り入れる。 ・国語の学習だけではなく、日常生活においても意識して敬語を使えるように指導する。
情報の扱い方 に関する事項	平均正答率は、市と比べて6.3ポイント高い。 ○情報と情報の関係について理解し、文章の情報を整理することについては、市の平均と比べて6.7ポイント高い。 ●情報と情報との関係について理解し、目的に応じて文章を簡潔に書くことについては、市の平均より6ポイント高いが、正答率は30%台である。複数の情報から中心となる情報は見つけられるが、それを生かして文章を書くことができない。	・必要な情報は、目的に応じて変わるため、読む目的を明確にして情報を扱えるように指導する。 ・国語だけでなく、他教科でも文章中の言葉と資料や図表の関係する部分とを線で結びつけるなどして視覚的に理解できるように指導する。
我が国の言語文化 に関する事項	平均正答率は、市と比べて3.4ポイント低い。 ●漢字の成り立ちについての理解が不十分であることが分かる。5年生の漢字の成り立ち（構成についての4種類）の学習が不十分であったと考えられる。	・低学年から、漢字の学習をする際には、漢字の成り立ちについて触れながら指導する。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市と比べて0.8ポイント高い。 ○話し手の工夫や司会者の工夫をとらえている児童は、90%以上おり、昨年度より正答率が約10%上昇した。 ●互いの立場を明確にしながら計画的に話し合い、考えをまとめることについては、市の平均正答率より3.7ポイント低く、目的に応じて考えをまとめ、簡潔に話すことに課題が残る。	・児童の話すこと・聞くことの基礎・基本が身に付けられるように「築瀬小学習の決まり」を引き続き活用し、指導する。 ・国語の学習だけではなく、話し合いをするときには、「話し合いの意図を捉える、話し手の意図を考えながら聞く、自分の立場や考え方が伝わるように話す」ことを指導する。
書くこと	平均正答率は、市と比べて8.7ポイント高い。 ○指定された条件で文章を書くことや資料から読み取った事実を書くことについては、80%以上の正答率であり、書くことの基礎はできていることが分かる。 ●資料から読み取ったことをもとに、目的に応じて文章を書いたり、自分の意見と関連させた文章を書いたりすることに課題が残る。	・学校生活全般において、どの子どもにも自分の考えを書く習慣を付けさせる。 ・複数の情報から中心となる情報を見つけ、それを生かした文章を書けるようにするために、要点をおさえて書く力を育てる指導をする。
読むこと	平均正答率は、市と比べて0.2ポイント低い。 ○説明文の情報を整理して、中心となる語や文章を見つけることについては、80%以上の児童ができている。 ●文章全体の構成を捉えることについての正答率は、50%台である。形式段落ごとの内容は捉えられるが、段落同士の関係や全体の構成を捉えることに課題が残る。	・段落同士の関係や全体の構成を捉えることができるように、接続詞に注目して読む指導をする。 ・説明文を論理的に読めるように、説明文の学習用語を低学年から系統的に指導する。

宇都宮市立築瀬小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	76.9	78.9	75.4
	農業や水産業	77.0	76.1	71.2
	工業生産	69.8	62.9	59.4
	産業と情報の関わり	79.8	77.6	59.7
	日本の政治	71.7	75.0	79.3
	日本の歴史	70.8	73.1	72.8
観点別	知識・技能	72.3	73.0	71.4
	思考・判断・表現	80.1	79.8	71.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

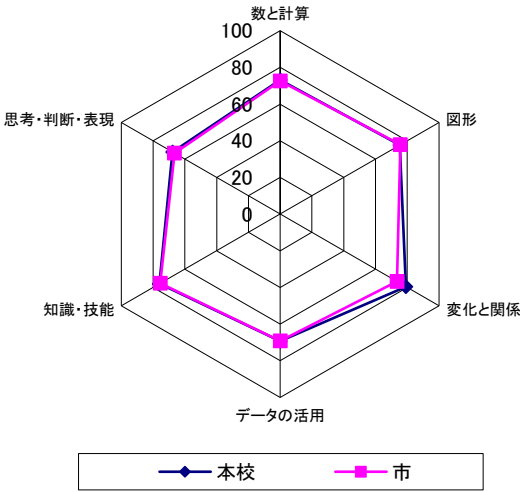
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境 などの様子	平均正答率は、市と比べて2ポイント低い。 ○中国の国旗と位置の理解について問う問題では、市の平均正答率より、1.5ポイント高い。 ●日本の主な地形の名称と位置の理解をもとに、地図から選択する問題では、市の平均正答率より6.8ポイント低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・都道府県名だけでなく、その地域の特色について関連付けながら理解できるように、授業の展開を工夫する。また、地形マップや特産品マップなども活用し理解を深めさせていく。
農業や水産業	平均正答率は、市と比べて0.9ポイント高い。 ○都道府県の位置の理解をもとに、米の生産量について表を読み取り、白地図にまとめる問題では、市の平均正答率より、2.6ポイント高い。 ●複数の資料に着目して、魚の流通にかかる費用について選択する問題では、市の平均正答率より、1.1ポイント低い。	・1つの資料だけでなく、いくつかの資料を組み合わせながら、内容をしっかり捉えさせ、分かったことや考えたことを文章でまとめたり、伝えあったりする活動を取り入れ、児童がより理解を深められるようにする。
工業生産	平均正答率は、市と比べて6.9ポイント高い。 ○大工場と中小工場の理解をもとに、資料を読み取る問題では、市の平均正答率より15.1ポイント高い。	・引き続き、身近な出来事について関心をもたせ、日常生活と工業生産を関連付けて考えることが出来るように指導を継続していく。
産業と情報の関わり	平均正答率は、市と比べて2.2ポイント高い。 ○インターネットを利用するときの注意点について問う問題では、市の平均正答率より2.8ポイント高い。	・引き続き、情報産業や情報化社会の領域においては、自分の身の回りの問題であるという認識を高めながら、基礎事項を確実に定着させ、さらに自ら判断できるように指導を継続していく。
日本の政治	平均正答率は、市と比べて3.3ポイント低い。 ○非核三原則について問う問題では、市の平均正答率より2.2ポイント高い。 ●裁判の仕組みについて資料を読み取る問題では、市の平均正答率より8.2ポイント低い。 ●国会の仕組みについての理解を問う問題では、市の平均正答率より8.1ポイント低い。	・家庭と連携して、ニュースを見たり、新聞を読んだりするなど、世の中への興味関心を広げるようにする。 ・国会の仕組みについて、自分たちの身近な生活と関連させて考えまとめる時間を授業の中に位置付け実施していく。
日本の歴史	平均正答率は、市と比べて2.3ポイント低い。 ○元寇後の日本についての理解を問う問題では、市の平均正答率より1.0ポイント高い。 ●飛鳥時代の出来事について問う問題では、市の平均正答率より3.8ポイント低い。 ●江戸時代の主な大名の配置について、資料を読み取り選択する問題では、市の平均正答率より6.6ポイント低い。	・1つの資料だけでなく、いくつかの資料を組み合わせながら、事象をしっかり捉えさせ、その時代の出来事や人々の生活の様子などを把握することができるよう指導を重ねていく。 ・教科書や資料集の用語を使って、単元ごとに課題を明確にする。さらに日常のノート指導などを通してノートのまとめ方などを指導していきたい。

宇都宮市立築瀬小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	73.1	72.6	73.1
	図形	75.3	75.7	74.7
	変化と関係	79.1	73.6	66.1
	データの活用	69.3	69.2	70.7
観点別	知識・技能	76.0	75.5	74.4
	思考・判断・表現	67.7	66.5	67.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(算数では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

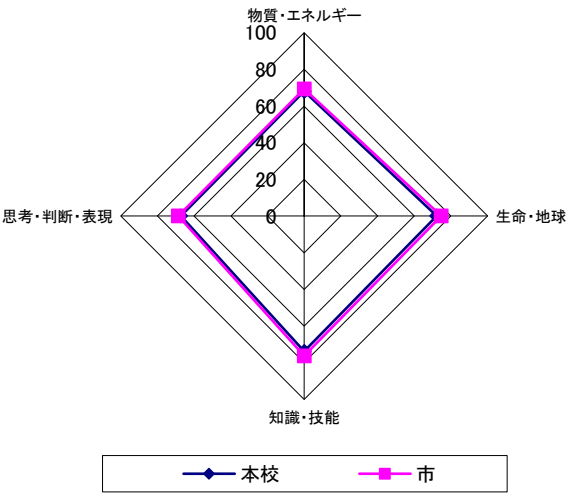
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市と比べて0.5ポイント高い。 ○分数のかけ算・わり算の正答率が高く、90.4～91.6%だった。 ●分数のかけ算では、他学年で既習した事項が定着していない状況で、平均正答率66.3%にとどまり、市の平均正答率より5.5ポイント低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・かけ算やわり算の問題のほか、分数のたし算ひき算も取り組ませて、通分・約分などの復習を行う。 ・学年末にまとめの学習に力を入れることで学年で身に付けるべきことはその学年のうちにできるようにしたりする。必要に応じて新しい単元の学習前に既習事項が定着しているかチェックしたり、朝の学習の時間に復習問題に取り組ませるなどして基礎的な力が付くようにしていく。
図形	平均正答率は、市と比べて0.4ポイント低い。 ○線対称・点对称の対応する線や点を求める問題で、市の平均正答率より1.7～3.3ポイント高い。 ●「図形」の領域の正答率は75.3%で、市の平均正答率より、0.4ポイント低い。	・これからも、いろいろな図形の問題にふれさせ、その性質などを見いだし、統合的・発展的に考察する力を育てていく。正多角形の問題にも多く取り組ませる。
変化と関係	平均正答率は、市と比べて5.5ポイント高い。 ○単位量あたりの大きさや速さの基本的な問題、表から面積と人数の割合を求める問題では市の平均正答率より9.8ポイント高い。 ●文章の読み取りを必要とする設問に対しては、問われている内容がつかめない児童も見られた。	・文章の読み取りが必要な問題は、何を解答すればよいか授業中にしっかり押さえられるようにし、発展的な問題にも習熟状況を見て取り組ませる。 ・問題文の内容を分かりやすくするため、絵や図、表などを使って表すように指導する。
データの活用	平均正答率は、市と比べて0.1ポイント高い。 ○度数分布票については、市の平均正答率より2.8ポイント高く、90.4%が理解していた。度数分布票を詳しく読み取る問題では、市の平均正答率より8.8ポイント高い。 ●グラフを読み取って、その理由を説明することや、最頻値を求める問題では、市の平均正答率より8.8ポイント高いが、平均正答率は、38.6%である。	・算数以外の社会や理科などの時間にも、いろいろなグラフや複数の資料からわかることを読み取るような活動に取り組ませる。 ・児童が解き方をじっくり考えて、自分の考えを書いたり、友達に伝えたりする場面を多く設ける。 ・日常的にタブレット等を活用し多様な資料の読み取りにも活用していく。

宇都宮市立築瀬小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	68.0	69.3	65.7
	生命・地球	72.2	74.7	77.8
観点別	知識・技能	73.7	76.2	76.4
	思考・判断・表現	67.2	68.7	68.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、市と比べて1.3ポイント低い。 ○ろうそくの火が消えた理由についての考察を改善し、記述する問題では、市の平均より14.7ポイント高い。 ●5年生の学習内容である、ものが水にとけても全体の重さは変わらないことや「水よう液」という用語を問う問題では誤答が多く課題が見られた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基礎的な用語繰り返し確認し定着を図るとともに、前の学年で学習した内容に関連する単元では、授業の中で予想や考察などの時に既習事項を振り返ることを意識させるようにしながら学習を進める。
生命・地球	平均正答率は、市と比べて2.5ポイント低い。 ○生物がとり入れたり出したりする気体の流れを問う問題では、市の平均より7.0ポイント高い。 ●だ液のはたらきを確かめるための実験を選ぶ問題では、どの実験を比較すると対照実験となるのかを選べず誤答が多く課題が見られた。	・どの比較対照実験においても、「変える条件」と「同じにする条件」を確認するときに、何の条件を確かめる実験であるかをよく確認してから実験に取り組ませるようにする。

宇都宮市立築瀬小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・学習習慣の確立に向けた指導の工夫	・安心して学べる環境作り ・家庭学習の習慣化に向けた家庭と連携した取組 ・児童・保護者に向けた家庭学習の仕方のプリントの配付・啓発	・「宿題はきちんとやり、期限までに提出している」のアンケートに肯定的に回答した児童の割合は3・6年生は市の平均回答率より高い。また、市の平均より低いものの1・4年生は90%を超えている。 ・3年生以上の学年にある「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」のアンケートに、肯定的に回答した児童の割合は、どの学年も70パーセントには達しなかった。しかし、5・6年生は市の平均より3.5ポイント、0.3ポイント高い。
・基礎的・基本的な知識及び技能の定着	・朝の学習の時間に、漢字や計算の習熟が図れるような課題の設定 ・基礎的・基本的な定着を図るために、学習内容の定着と学び方・考え方の定着の要素を考えた授業の展開 ・漢字・計算オリンピックの実施 ・個別指導の充実を図るために、高学年の少人数指導やコース別学習の実施	・漢字の読み書きは、市の平均正答率より低いものもあるが、校内の平均正答率は80%を超えている。 ・算数では、基礎領域は73.5%の正答率で、市の平均正答率より0.2ポイント高く、活用領域は67.9%の正答率で、市の平均正答率より2ポイント高い。 ・「学習して、いろいろなことが分かったり、できるようになったりすることはうれしい。」のアンケートに肯定的に回答した児童の割合は、市の平均回答率より1～5年生は低い、どの学年も90%を超えている。特に6年生は、97.6%で市の平均回答率を4.4ポイント上回った。
・主体的に自分の考えや思いを表現する力の育成	・「築瀬小学習のきまり」を活用した、話し方や聞き方の指導 ・あらゆる教育活動において、文章の内容を正しく読み取り、根拠や理由をもとに自分の書く活動の実施 ・主体的・協働的な学びを通して、学びを実感できるような授業の展開	・国語の「話すこと・聞くこと」の領域は、「話し手の目的に応じて、話の内容を捉える」問題は正答率は100%であったが、「互いの立場や意図を明確にし、計画的に話し合う」ことに関する問題は市の平均正答率より3.7ポイント低い。 ・国語の「書くこと」の領域は、市の平均正答率より8.7ポイント高く、全ての問題で市の平均正答率を上回った。特に「2段落構成で文章で書いている」の正答率は88%で、市の平均正答率よりも18.8ポイント高い。 ・3年生以上の学年にある「自分の考えを、根拠(理由)をあげながら話すことができる」のアンケートに肯定的に回答した児童の割合は、3年生が70.5%、5年生が64.9%、6年生が72.9%と市の平均回答率をそれぞれ4.4ポイント、1.3ポイント、3.5ポイント上回った。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・家庭学習に関しては、「宿題をきちんとやり、期限までに提出している。」のアンケートに肯定的に回答した児童の割合は、90%を超える学年がほとんどで、児童がきちんと宿題に取り組もうとしていることが分かる。しかし、「授業で習ったことをその日のうちに復習している。」の項目では、肯定的に回答した児童の割合が50%に満たない学年も見られた。「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる。」、「テストで間違えた問題は、もう一度やり直している。」についても市の平均回答率を下回る学年が複数あった。今後も宿題だけでなく、家庭学習にも積極的に取り組むことができるよう、家庭との連携を図りながら、指導をさらに充実させていく。

・基礎的・基本的な知識及び技能の定着に関しては、引き続き、朝の学習や漢字オリンピックに引き続き取り組み、基礎的な学習内容の定着や読解力を高めていくとともに、文章の中で、文脈に沿った漢字を適切に使えるような課題も取り入れていく。また、日常生活においては、意識して敬語を使うように指導していく。漢字の読み書きは、市の平均回答率より低いものもあるが、校内の平均正答率は、ほぼ80%を超えている。また、算数はどの領域も市の平均回答率よりも高かった。これは、朝の学習時間を利用して漢字や計算の習熟を図り、特に、漢字・計算オリンピックの期間に合わせて1か月前から朝の学習で漢字や計算練習に重点的に取んだ結果であると考えられる。また少人数指導やコース別学習などを行い、個別指導をしたことは、大部分の児童が計算の基礎的な技能を身に付けるのに役立ったと考えられる。

・文章を正しく読み取ることにに関しては、正答率の向上が見られるが個人差も見られた。今後も、あらゆる教育活動において、自分の考えや思いを表現する力の育成のため、書く活動の習慣化や言語活動の充実を図っていき、文章への抵抗感を軽減し、文章を正しく理解できるようにしていく。そして、児童がその学びを実感できるよう、授業改善に努めていく。